

カラスバト *Columba janthina* の塩類摂取行動

渡久地豊¹・金城道男²・市田豊子³

1. 日本野鳥の会やんばる支部. 〒905-11 沖縄県名護市字呉我685
2. 日本野鳥の会やんばる支部. 〒904-23 沖縄県与那城町字与那城284-1
3. 日本野鳥の会やんばる支部. 〒905-13 沖縄県大宜味村字喜如嘉2234

ハト類の塩類摂取に関しては、海水を飲むアオバト *Sphenurus sieboldii* の観察例が北海道小樽市張碓町（佐々木 1986）や、神奈川県大磯町照ヶ崎海岸（日本野鳥の会神奈川支部 1992）などで報告されている。国外ではヒメモリバト *Columba oenas* が、時には汽水や海水を飲み、また小石や小砂をよく食べる（Cramp 1985）ことが報告されている。モリバト *C. palumbus* についても、早朝に道路や舗装道路から小石、小砂を食べ、ときおり汽水や海水を飲むことが報告されている（Cramp 1985）。このように一部のハトに関しては、塩類摂取行動が知られている。カラスバト *C. janthina* に関しては今まで類似の行動が知られていないが、筆者らは沖縄島北部名護市の北に位置するやんばる地区の沿岸の森林で、1994年から2年間にわたりカラスバトの夏期集団ねぐらの調査を行ってきた（渡久地ほか 1995）。その調査の過程において、カラスバトが海岸において、海水、砂、小石、二枚貝などを摂食する塩類および小石の摂取行動を発見したので報告する。この行動は、名護市以北の沖縄島やんばる地区の2か所で観察された。いずれの地点も一部道路が横断しているが、山から海岸まで樹木が連続している。なお、天然記念物であるカラスバト保護のために調査地の詳細な位置は省略し、a地点、b地点とする。

1994年6月26日、a地点の海岸から100～500mほど離れたガジュマル *Ficus microcarpa* などを中心とした常緑広葉樹林の複数の谷間で、夏期集団ねぐらを発見した。5日後の6月30日、ねぐらから飛び立つ個体を調査している際、干潟に降りている12羽をはじめ確認した（図1）。その後の調査で海岸から約30m離れた10数本のトキワギョリュウ *Casuarina equisetifolia* などの木へ20～50羽が集結した後、干潟や岩礁に舞い降りることがわかった。干潟の底質は砂質であるが、礫が多く、千枚岩の岩礁もみられる。それらには二枚貝が数多く付着していた。a地点では、岩礁のくぼみに残っている海水や浅瀬の海水を吸水していた。そのほかに小石や長径5mm前後の二枚貝を摂食していた。海岸へ降りて塩類を摂取したカラスバトの最大羽数は、7月14日に観察した200～300羽だった。

1995年7月6日、b地点の海岸から100～200mほど離れたリュウキュウマツ *Pinus luchuensis* などを中心とした針広混交樹林の谷間で新たな夏期集団ねぐらを発見した。a地点と数km離れた海岸のb地点においてもカラスバトの塩類摂取行動がみられた。b地点は

1995年12月8日 受理

キ - ワ - ド : 塩類の摂取, カラスバト, 沖縄島



図1．塩類を摂取するカラスバト

Fig. 1. Japanese Wood Pigeons drinking sea water.

高さ約15 mほどの堆積岩でその岩上には、リュウキュウマツやシマタゴ *Fraxinus floribunda* の樹木が生育している。7月7日、ねぐらから飛び立った個体のうちの105羽がそれらの木に集結し、岩の中段の岩棚に降り、塩分を含んだ砂や小石を摂食するのが観察された。そのうちの5羽以上が、波打ちぎわに降りて海水を吸水していた。

a・b地点とも、岩礁の色は暗黒色でカラスバトの体色に酷似しており、ツミ *Accipiter gularis* などの捕食者からの隠蔽効果があるように思われた。この隠蔽効果の重要性は、a地点、b地点ともに、カラスバトの塩類の摂取が、太陽光線が入射せず隠蔽効果が高いと思われる早朝の約1時間のみを観察され、太陽光線が入射している時間帯には観察されなかったことから支持される。捕食者としては、ねぐら周辺で採食中のカラスバトの群れがツミに襲われているのが4回目撃されている。また、塩類摂取中のカラスバトは物音へ過敏に反応し、一斉に飛び立つのがしばしば観察された。

アオバトでは、海水で水浴びすることが報告されているが(佐々木 1986, 日本野鳥の会 神奈川支部 1992), カラスバトでは水浴びは観察されなかった。

a地点近くの夏期集団ねぐらは、1994年は6月26日～8月14日にかけて存続した。塩類の摂取行動は、6月30日、7月2日、9日、12日、13日、14日、15日の早朝にみられた。1995年のねぐらは、6月1日～8月4日にかけて存続した。塩類摂取行動は、6月24日、7月5日、6日、8日の早朝に見られた。7月12日の早朝には、トキワギョリュウの木に集まった約30羽の群れから3羽がa地点に降りようと上空を巡回したが、満潮のため干潟や岩

表1. カラスバトが摂食した食物
Table 1. Food items of Japanese Wood Pigeons.

摂食した食物または種名		摂食地
海水	Sea water	a, b
砂, 小石	Sand	a, b
二枚貝	Shell	a
ガジュマルの実	<i>Ficus microcarpa</i>	a
ホソバムクイヌビワの実	<i>F. ampelas</i>	a
オオバギの実	<i>Macaranga tanarius</i>	a
センダンの実	<i>Melia azedarach</i>	a
フカノキの実	<i>Schefflera octophylla</i>	a
クワノハエノキの実	<i>Celtis boninensis</i>	a
ウラジロエノキの実	<i>Trema orientalis</i>	b
シマタゴの葉	<i>Fraxinus floribunda</i>	b
ショウロウクサギの葉	<i>Clerodendrum trichotomum</i>	a
トキワギョリュウの葉	<i>Casuarina equisetifolia</i>	b

礁が現れていないためか降りられず、そのまま飛び去り塩類摂取は行なわれなかった。7月20日の早朝には、トキワギョリュウの木に12羽が止まっていたが、干潮で干潟が現れているにもかかわらず1羽も降りなかった。7月25日の早朝にはトキワギョリュウの木には1羽も見られなかったが、ねぐら入りの調査では452羽が確認された。

b地点近くの夏期集団ねぐらは、1995年7月6日～8月7日にかけて存続した。塩類摂取行動は、7月7日、18日の早朝にみられた。7月28日には、ねぐらから飛び立つ82羽を確認したが塩類摂取行動はみられなかった。8月3日には、同じく25羽を確認したが塩類摂取行動は見られなかった。

このように塩類の摂取は6月下旬から7月中旬にのみ記録された。なぜこの時期に海水や砂などの塩類摂取をするかについては、明らかでない。その理由としては、果実食のカラスバトが、この時期に摂食している果実や種子や葉（表1）などからだけでは、必要な塩分やミネラルが摂取できないという仮説が考えられる。またヒナヘビジョンミルクを与える際に、親が普段食べている果実や種子の塩分ではまかないきれないという仮説も考えられる。これまで沖縄島におけるカラスバトの繁殖は報告されていないので、山本・三宅（1994）のように繁殖の時期などを調べることによって繁殖と塩類摂取の関係を明らかにしていきたい。

謝 辞

本調査をすすめるにあたり、日本野鳥の会やんばる支部の久高将和氏にご助言をいただいた。本稿をまとめるにあたり、日本野鳥の会の市田則孝氏にご指導をいただいた。これらの方々に心からお礼申し上げる。

引用文献

- 佐々木勇. 1986. あおばと. 佐々木宏 自費出版.
日本野鳥の会神奈川支部. 1992. 大磯町照ヶ崎海岸におけるアオバトの生態. 日本野鳥の会神奈川支部, 横浜市.

- 山本健次郎・三宅貞敏. 1994. 光市牛島におけるカラスバトの生態. 山口県立山口博物館研究報告書 (20): 1-25.
- Cramp, S. (ed). 1985. Handbook of the Birds of Europe the Middle East and North Africa Vol. IV. pp. 298-309, 311-329. Oxford University Press, Oxford, New York.
- 渡久地豊・金城道男・市田豊子. 1995. 沖縄島北部におけるカラスバト *Columba janthina* の夏期の集団ねぐら. Strix 14: 177-181.

Japanese Wood Pigeons drink sea water

Yutaka Toguchi¹, Michio Kinjou² & Toyoko Ichida³

1. 685 Goga, Nago-shi, Okinawa 905-11, Japan

2. 284-1 Yanashiro, Yonashiro-cho, Okinawa 904-23, Japan

3. 2234 Kijoka, Ogimi-son, Okinawa 905-13

We observed Japanese Wood Pigeons *Columba janthina* drinking sea water, for the first time in Okinawa Island, southern Japan. This behavior was observed from late June to early July, and only in the early morning.

Key words: *Columba janthina*, *Okinawa Island*, *sea water*